

全国保健師長会 福島県支部ニュース

H29.9月発行 編集責任者 鈴木栄子

全国保健師長会福島県支部の皆様へ

早いもので秋風が心地よい時節となりました、いかがお過ごしでしょうか。

今年度も6月に総会が終了し、新役員7名を加えた計12名の役員での新体制がスタートしました。保健師長会として皆様の活動に立つ情報発信等に努めてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

平成29年度全国保健師長会福島県支部総会について

平成29年6月24日(土)郡山地域職業訓練センターにて総会を開催いたしました。会員76名中、24名が出席し、47名の委任状提出により総会は成立しました。議長には、相双保健福祉事務所の渡部智子さんといわき市の藁谷曜子さんが選出され、平成28年度事業報告・収支決算報告・会計監査報告、次いで、平成29年度事業計画(案)・収支予算(案)等の議案について審議し、承認されました。

平成29年度事業計画(案)・収支予算(案)の中で、予定されている代議員数、研修費の内訳について等の質問が出されるなど活発な質疑、意見交換がなされました。

会のますますの発展、活性化に向け、適宜、会員の皆様からの御意見・御要望をお待ちしておりますとともに、総会への出席もお待ちしております。

新支部長あいさつ

皆さん、こんにちは。

平成29年度の支部長を引き受けることになりました、福島県県南保健福祉事務所の鈴木栄子です。前任の菅野支部長同様、皆様からご意見をいただきながら、会の運営を進めてまいりたいと思いますので、御協力をお願いいたします。

今年度の全国保健師長会「最重点活動目標」の1つとして「保健師活動の可視化及び質の向上」が、あげられています。

保健師活動を可視化していくことは、保健師活動の充実強化を図るためには、必要なことです。ぜひ、皆様と意見交換しながら、進めていければと思います。

どうぞ、よろしく願いします。

県南保健福祉事務所 鈴木栄子

役員をご紹介します

平成29年度総会で承認され、任期は2年間となります。よろしくお願いいたします。

役 職	氏 名	所 属
支 部 長	鈴木 栄子	県南保健福祉事務所
副 支 部 長	近江 邦子	福島市
//	前田 香	福島県健康増進課
理 事	松本 美佐江	本宮市
//	横山 敦子	郡山市
//	藁谷 曜子	いわき市
//	伊藤 加与子	伊達市
//	鈴木 克子	白河市
//	橋本 隆子	相双保健福祉事務所
//	菊地 陽子	県南保健福祉事務所
監 事	山田 祐子	南相馬市
//	小田島 カヨ	県北保健福祉事務所

福島県支部長の任期を終えて…

伊達市 菅野誓子

平成27～28年度の2年間を支部長、平成23～26年度までは支部理事として会計を担当しましたので、6年間役員をさせていただきました。保健師長会の活動内容もよくわからず、引き受けてしまったのですが、多くの方との出会いは、大変貴重なものでした。大変なこともありましたが、それ以上に得られるものの方が大きかったと思います。

また、全国の研修会・会議に参加させていただくことにより、県外他市町村や全国の状況、国の動きが分かり自分たちの今置かれている状況を客観的に見つめることができました。県支部役員会での情報交換は、日々の業務に直結しているので、リアルタイムでの県内状況把握と明日への活力になりました。

先日あるテレビ番組を見ていたら「この時代に生き残れるのは、周りを見渡し、柔軟に時代に対応できるということですよ」という話をしていました。生き残れる保健師になっていきたいものだと思います。困難なことも多い昨今ですが「一人じゃないよ」と仲間の協力と、より多くの応援団を巻き込んで、楽しく仕事ができたらいいなと思っています。

会員の皆様には、ご協力をいただきありがとうございました。今後も、保健師長会の活動が発展していきますよう、皆さんで一致団結して頑張っていきたいと思います。

交流会の報告

総会に引き続き行った交流会は、22名の方が参加しました。

自己紹介とともに、現在、取り組んでいることなどについて、途中、昼食をとりながら語り合い、ネウボラがスタートしたことや改めて生活習慣病の予防・改善が課題となっていること、地域包括ケアシステムの構築、高齢者世帯が抱える成人のひきこもり問題など、様々な取り組みや課題が話題に上り、保健師が多分野で活躍している様子を共有することができました。



また、新任保健師等の人材育成や、保健師の分散配置による情報交換の減少、保健師現任教育の自組織へのアピールなども課題として挙げられ、下記のような取り組みや、成果が出ている事業などを情報発信し、保健師の取り組みを周知していくこととの大切さについても再確認しました。

【保健師の人材育成・分散配置への対応】

- ・ 統括的立場の保健師が中心となり、保健師同士で情報交換の場を持つ。
- ・ 地区診断や事例検討の機会を設ける。

短い時間ではありましたが、担当業務以外の動向や各市町村等の取り組みを知る機会となり、有意義な交流会であったと思いました。

(福島県健康増進課 前田 香)

研修会の報告

総会・交流会に引き続き、「保健師のキャリアラダーを活用した人材育成」をテーマに、千葉大学大学院看護学研究科 宮崎美砂子教授に御講演をいただきました。

主な内容として、同じ経験をして、成長する人、経験から学べる人、成長しつづける人は限られており、経験から学ぶ力として、「ストレッチ(挑戦する力)」、「リフレクション(振り返る力)」、「エンジョイメント(楽しむ力(仕事の意味、やりがいを見いだす))」のサイクルを回すことにより、「思い(自己と他者への関心)」と「つながり(他者との関係)」を強めていくこと。

自分の実践について、そのときの思いや考え、感情を振り返り、その背景にある自分の傾向に気づき、熟考するリフレクション(内省)により専門職としての信念・価値の形成につながることを、それができるように、安全で、暖かく、信頼深い状況を環境として作り出すことが大切であること等多くのことを学びました。

印象的だったのは、仕事への信念が形成され、知識・スキルが身体にしみこんでいく入職して6~10年(中期)における経験が、キャリア発達のうえで必要な学習の鍵を握っており、この時期に経験学習を促す仕組みを作り上げるとことで、人材育成の効果をあげることができるという点でした。



穏やかな口調の先生の御講演に、今までの経験を振り返るとともに今後の人材育成に多くの示唆をいただきました。

(相双保健福祉事務所 橋本隆子)

東北ブロック研修会出席報告

8月26日（土）、青森市に於いて東北ブロック研修会が開催されました。本県からは、白河市の岡崎さん、郡山市の斎藤さん、南相馬市の山田、午前からの支部長会議に引き続き、支部長の鈴木さん、副支部長の前田さんの5名が出席しました。会場は「青森市文化観光交流施設 ねぶたの家 ワ・ラッセ」という施設で、ねぶたの展示と時間ごとにお囃子や太鼓の音が聞こえてくるなど、ねぶたを堪能できる場所でした。

今回の研修会のメインは、「地域に責任を持った活動のために保健師に求められること」と題して札幌市地域包括推進担当部長の岡島さおり氏より講演をしていただきました。

地域の保健福祉課題をどう見るかについて、データから個人に及ぼす影響を推し量る量的データに基づく地域アセスメント（鳥の目）と個別支援から個の背景や地域に視点を広げる質的データに基づく地域アセスメント（虫の目）がある。個別支援をしっかりとやりきることが、地域の課題解決に向かう一歩となり、個別支援の記録は、アセスメントデータの宝庫となる。相談・訪問の記録が組織内合意や意思決定に役立つ資料となることから、目的に沿って一貫した内容、客観的事実や情報に基づいていること、更には、記録から報告へ変換する技術が求められている。また、担当地区は、活動エリアやケースの線引きをするためではなく、住民や地域資源との協働により、共に健康課題を解決していくコミュニティの単位であること、保健師は活動の結果を根拠に住民や地域がめざす目標を事業や施策に反映すべく組織合意に導くことである。今回の講演では、個別支援から政策に至るまでのプロセスが地域に責任を持つということを学ぶことができました。論理的な中にも保健師魂を揺さぶられるような内容であり、すぐに実践したい、たくさんの人に伝えたいと思える研修会でした。

（南相馬市 山田祐子）

ねぶたの前で記念写真撮影



編集後記

研修の中で、宮崎先生より「地域を・・・「みる」「つなぐ」「動かす」は継承すべき保健師の能力。（仕事の姿勢、価値観 行動も含めた。）文字化したり人に伝えたりするのが難しい部分こそ、先輩がやっている事を見せ、思考のプロセス（あれこれ考えて迷った結果、こうする事にした等）を出来るだけ言語化して伝える。」とのお話がありました。

思考のプロセスを伝える。自分に足りない部分である・・・トリフレクション?! しております。

（担当：伊達市 伊藤 相双保健福祉事務所 橋本）

